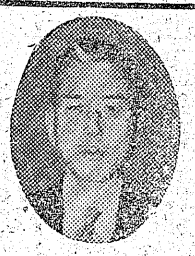
昭和28年（1953年）11月15日（日曜日）　第980号
磐城日日
「除月號」第三種郵便物認可　磐城日日　昭和25年10月5日　運輸省特別扱承認第684号

磐城市創設への主張

町村合併促進法の登場は全國の町村を合併減数することによつて、諸経費節費面に生する五百億という厖大な金額を復興面に活用しようというのが最大の眼目となり、併せて地方行政面の簡素化とスピードアップが期されているか、如何にこの合併促進が緊急性を持ち、従つてがあるか、先ず本日自治廳発表の資料二十七年度決算處理状況に地方自治團体の実態を究明、赤字財政の克服と、綜合計畫による経とし本社は可及的速かな大磐城市の建設を茲に提唱し、隣接町村の大同協力のもと是を緊急実施することによつて地方民の福利増強を促進したいと切に希いこの推進を敢えて強調し達成に協心努力しようとする

島行併運動費を無駄にし湯本町民としての鯨岡氏自身すら若し鹿島村民なりせば湯本合併の愚を敢えてしないという、湯本は常磐炭礦の命運と共に必然的な興勢性の中で年々炭礦依存の經済力が消耗され、遂には常磐沿線の一閑村に轉落するに至ると破竭している一縷の望み温泉都の道が壓斷されようとしている矢先、湯本町並びに隣接磐崎村など一共に磐城市の機構に合流参加することは、同町の繁榮維持と町民の将来に対する福祉増進と確保を堅持する唯一の道として、湯本町のいわき市建設参加も歴史的必然性を持つように思われる



地方團体赤字財政の實相

即ち自治廳発表による二十七年度地方團体の赤字財政實相は全國数一、〇四九団体金額百五四億五千万圓前年に比し數に於て七二〇、金額で六三億の激増を示し、仕事の繰り延べ等でどうにか收支に恰好をつけ実質的に赤字財政をゆくもの府縣二十四、市五五、町村一五〇〇、計一五八〇、金額八二億是等はそのやり繰り算段で翌年の財源に喰い込んでおる実質上の赤字財政であることは明らかで是を合するときは二六二九團体赤字總額は実に三〇〇億にのぼり前年に比し二割六分の増を示しているのである

このように地方財政が悪化した赤字急増の原因は▽地方税收が振るわない▽給與改訂による給與經費の三二%増▽二二%の物價上昇▽四三八億の公共事業費地方負擔の財政政策が主となつているとみられるこの狀態下に最も健全であるのが地方団体別で市税の條件、最も苦しいのが縣財政、町村財政が是に次いでいる

大同市制その利点が確認され、その緊急實施が如何に重要性を持つているかの一資となるであろう

江名豊間への動脈

——海の玄関小名浜が市政の府となる立地的意義——

江名、豊間から平への鉄道海岸線への共通利益、鹿島を從断して平への國道開発、東北海の玄関として強化整備される港灣

上不可欠の亙座を占める小名浜はその意義を認識しあらゆる点に泉町民により大なる産業、經済、教育、文化、社會福祉施設の強化に努力等しく市民的利益生活を確立するであらう

接町村合同による、磐城市の、行政、産業、經済等の中心点として最適の地位にあることが實証され、極めて常識的にその行政の府がこの土地に決定されて然るべきだらう

陸の玄關飾る泉町

——いわき市構成へ必須——

常磐市構想下に当然の合流線として大きい存在は泉町であり、同町を陸の玄關とする輸送商の重要性は大磐城市の産業經済發展上の必須條件として認められ、いわき市発足り必然的歩みの中で泉町民の福祉も當然増大されて大同磐城市の性格上不可欠の亙座を占める小名浜はその意義を認識しあらゆる点に泉町民により大なる産業、經済、教育、文化、社會福祉施設の強化に努力等しく市民的利益生活を確立するであらう

湯本磐崎も合流

鯨岡聲明に見る資料

さて湯本町鯨岡聲明によれば、五百万にのぼる鹿島行併運動費を無駄にし湯本町民としての鯨岡氏自身すら若し鹿島村民なりせば湯本合併の愚を敢えてしないという、湯本は常磐炭礦の命運と共に必然的な興勢性の中で年々炭礦依存の經済力が消耗され、遂には常磐沿線の一閑村に轉落するに至ると破竭している一縷の望み温泉都の道が壓斷されようとしている矢先、湯本町並びに隣接磐崎村など一共に磐城市の機構に合流参加することは、同町の繁榮維持と町民の将来に対する福祉増進と確保を堅持する唯一の道として、湯本町のいわき市建設参加も歴史的必然性を持つように思われる

陸の玄關飾る泉町

——いわき市構成へ必須——

常磐名産　みりん干

第980号　昭和28年（1953年）11月15日（日曜日）　日日日　磐城　日日日　（月曜休刊）　一部3円　日日日　日日日　日本國有鐵道　日日日　日日日　日日日